

日本最古の学校 国指定史跡

# 足利学校

日本遺産認定！  
めざせ！世界遺産

## 史跡足利学校参観案内

**参観時間** 4月～9月 午前9時～午後5時 (受付は4時30分まで)  
 10月～3月 午前9時～午後4時30分 (受付は4時まで)

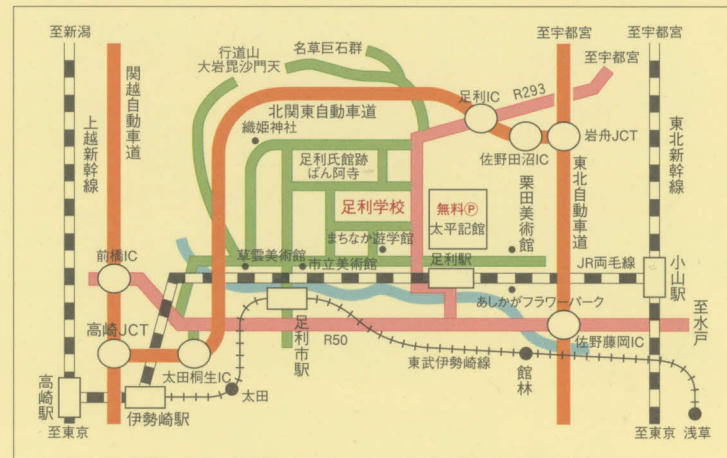
**休日** 第3月曜日 (祝日、振替休日のときは翌日)  
 年末 (12月29日～12月31日)  
 施設整備のため臨時に休むことがあります。

**参観料** (消費税を含んでいます)

対象	個人	団体(20人以上)
一般	420円	340円
高校生	210円	170円

※中学生以下・障がい者の方は無料

### 案内図



- **交通 電車** / 東武伊勢崎線 足利市駅から徒歩15分
- J R 両毛線 足利駅から徒歩10分
- 車** / 東北自動車道 佐野藤岡ICから30分
- 北関東自動車道 足利ICから15分
- 太田桐生ICから20分
- 佐野田沼ICから20分

## 史跡足利学校事務所

〒326-0813 栃木県足利市昌平町2338  
 TEL 0284(41)2655  
 FAX 0284(41)2082  
 E-mail gakkou@city.ashikaga.lg.jp  
 足利学校ホームページ <http://www.city.ashikaga.tochigi.jp/site/ashikagagakko/>

# 1 入徳門

入徳の額は、天保十一（一八四〇）年に掲げられたものです。現在の建物は裏門を移築したものといわれています。

# 2 学校門

寛文八（一六六八）年の創建。足利学校のシンボルとして江戸、明治、大正、昭和そして平成へと継承されています。

# 字降松

読めない字や意味の解らない言葉などを、紙に書いてこの松の枝に結んでおくと、翌日にはふりがなや注釈がついていたことから「かなふり松」と呼ばれるようになったと伝えられています。第七世席主九華のころの物語（伝説）です。



# 3 杏壇門

寛文八（一六六八）年の創建。明治二十五（一八九二）年に、町の大火の飛び火により屋根門扉が焼け、同三十年代に再建したものです。杏壇は孔子が弟子たちを教えたところ、杏の木が植えられています。いたことに由来しています。

# 不断梅

杏壇門を入れて左手にあり、樹齢百年を超えます。実が熟さないため、青い実が黒くなり冬まで枝に残っています。常に実が断えないことから、その呼び名があります。

# 4 孔子廟（聖廟）

寛文八（一六六八）年徳川幕府四



復原された方丈、庫裡

# 8 裏門

学生や一般の人の通用門として使われていました。

# 9 衆寮

学生が勉強したり、生活したりしたところです。

# 10 木小屋

薪木や農具置き場、漬物などの食料を保管した場所です。

# 11 土蔵

書籍以外で大切なものを納めていた蔵です。

# 12 席主の墓

駐車場石塔十七基あり、多くは無縫塔で、駐そのうちの八基が判読されています。

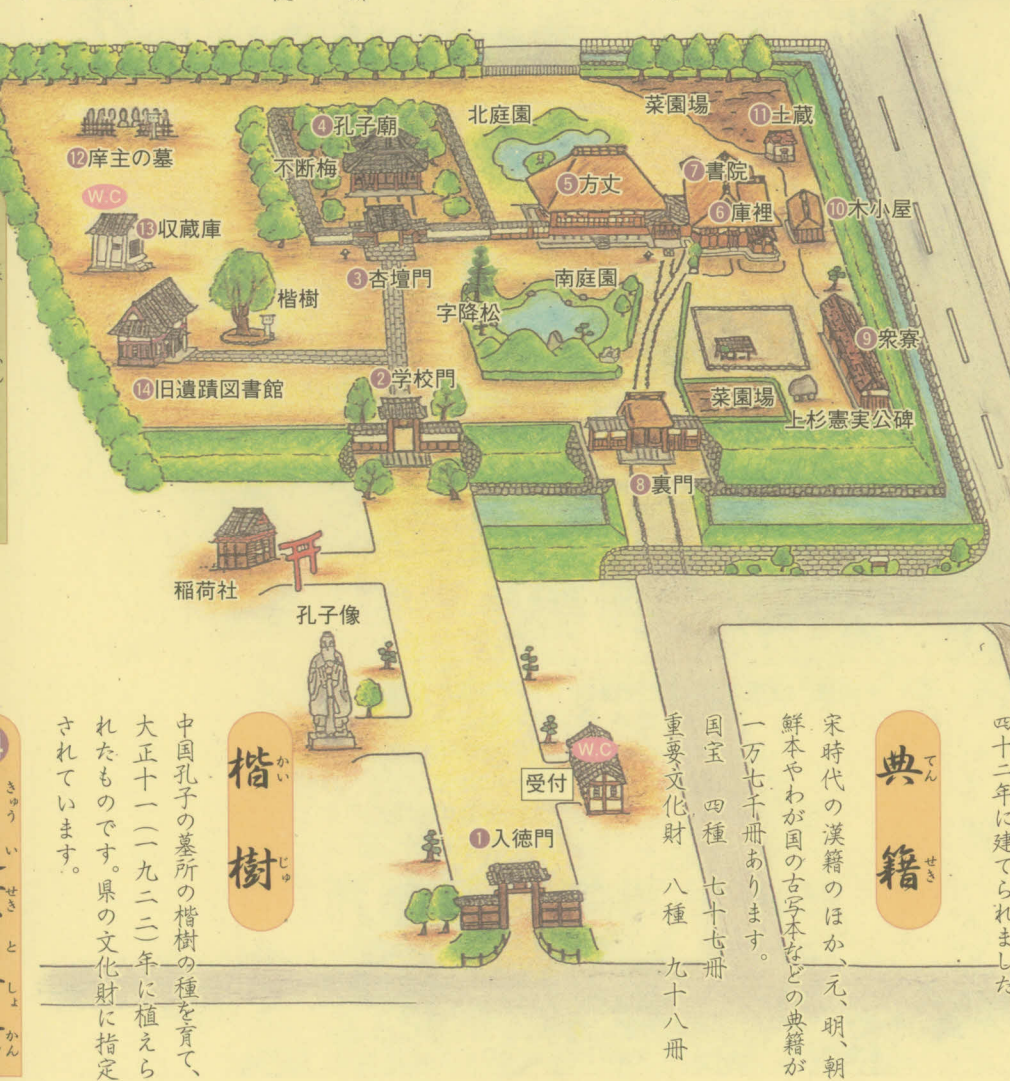
# 13 収蔵庫

典籍などを収納しておくため、昭和四十二年に建てられました。

# 典籍

宋時代の漢籍のほか、元、明、朝鮮本やわが国の古写本などの典籍が一万七千冊あります。

国宝 四種 七十七冊  
重要文化財 八種 九十八冊



# 字降松

学校の台所。食堂など日常生活が行われたところです。

# 6 庫裡

学生の講義や学習、学校行事や接客のための座敷として使用されたところです。

# 5 方丈



復原された方丈、庫裡

# 8 裏門

学生や一般の人の通用門として使われていました。

# 9 衆寮

学生が勉強したり、生活したりしたところです。

# 10 木小屋

薪木や農具置き場、漬物などの食料を保管した場所です。

# 11 土蔵

書籍以外で大切なものを納めていた蔵です。

# 12 席主の墓

駐車場石塔十七基あり、多くは無縫塔で、駐そのうちの八基が判読されています。

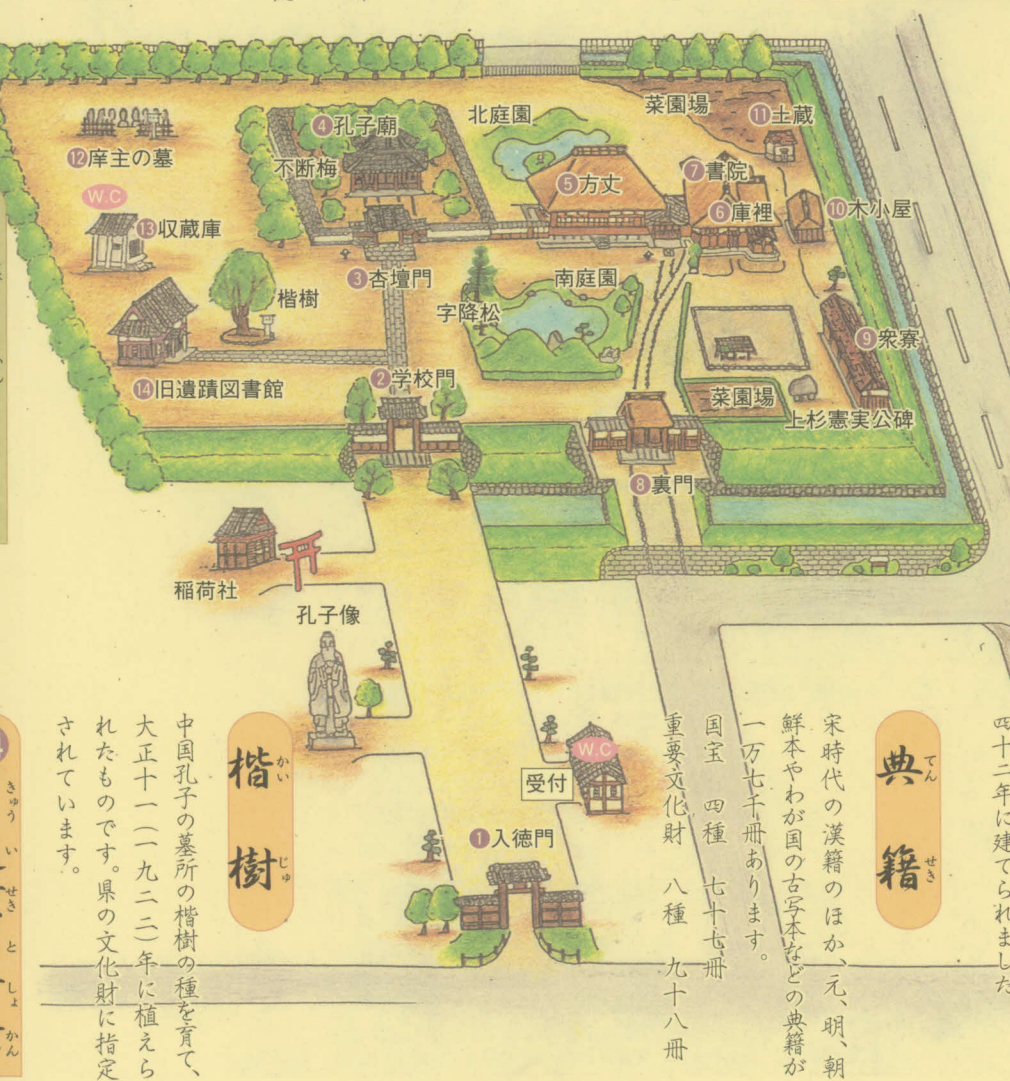
# 13 収蔵庫

典籍などを収納しておくため、昭和四十二年に建てられました。

# 典籍

宋時代の漢籍のほか、元、明、朝鮮本やわが国の古写本などの典籍が一万七千冊あります。

国宝 四種 七十七冊  
重要文化財 八種 九十八冊





字降松

行われたところです。

### 3 杏壇門

寛文八（一六六八）年の創建。  
明治二十五（一八九二）年に、町の大火の飛び火により屋根門扉が焼け、同三十年代に再建したものです。  
杏壇門孔子が弟子たちを教えたところに、杏の木が植えられていたことに由来しています。

### 不断梅

杏壇門入って左手にあり、樹齢百年を超えます。実が熟さないため、青い実が黒くなり冬まで枝に残っています。  
常に実が断えないことから、その呼び名があります。

### 4 孔子廟（聖廟）

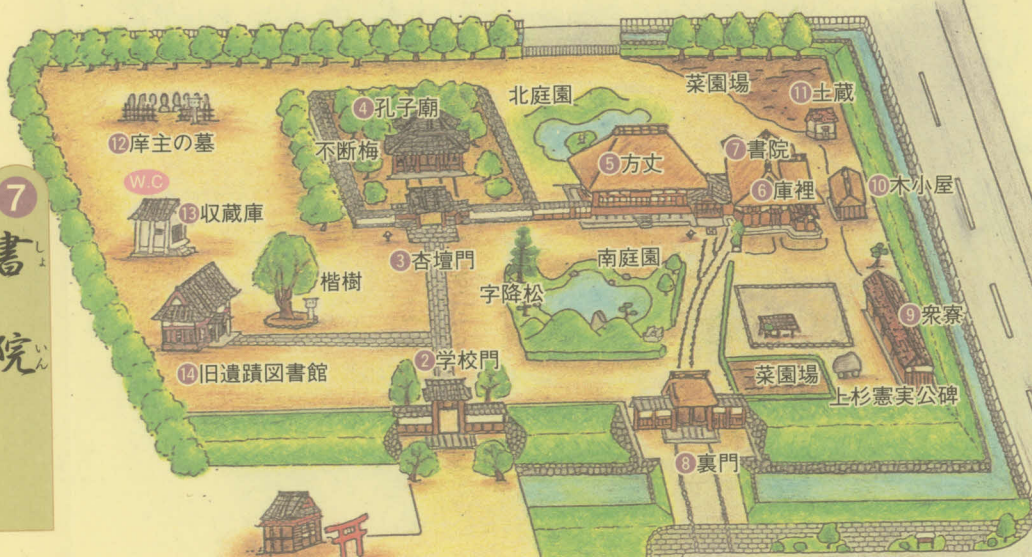
寛文八（一六六八）年徳川幕府四代將軍家綱の時に造営されたもので、中国明時代の聖廟を模したものと伝えられています。

### 釋奠

「釋奠は儒学の祖である孔子と、その弟子をまつる儀式で、この言葉には「供え物を置く」という意味があります。現在、史跡足利学校、東京の湯島聖堂、岡山県備前市の閑谷学校、佐賀県多久市の聖廟などで行われています。  
\*足利学校では毎年十一月二十三日に行われます。



釋奠



### 7 書院

庫主の書齋、庫主の接客や、学生に個人教授が行われたところです。



書院から孔子廟を望む

### 庭園

池と築山からなる築山泉水式庭園。南庭園は鶴がはばたくように見える入り組んだ水際、北庭園は亀のように見える水際となっています。

平成二（一九九〇）年に復原したものです。

### 典籍

宋時代の漢籍のほか、元、明、朝鮮本やわが国の古写本などの典籍が一万七千冊あります。

国宝 四種 七十七冊  
重要文化財 八種 九十八冊

### 楷樹

中国孔子の墓所の楷樹の種を育て、大正十一（一九二二）年に植えられたものです。県の文化財に指定されています。

### 14 旧遺蹟図書館

足利学校が廃校になった以後、明治三十六（一九〇三）年に遺蹟図書館が開設され、書物を継承し現在に引き継がれてきています。  
現在の建物は、大正四（一九一五）年に建てられたもので、市重要文化財に指定されています。



足利学校全景

生涯学習の時代

「自学自習」の精神を今に伝える教育の原点(日本最古の学校)

## 足利学校の歴史

足利学校の創建については、奈良時代の国学の遺制説、平安時代の小野篁説、鎌倉時代の足利義兼説などがありますが、歴史が明らかにするのは、上杉憲実(室町時代)が、現在国宝に指定されている書籍を寄進し、庠主(学長)制度を設けるなどして学校を再興したところからです。鎌倉建長寺住持の、玉隠永璵は、長享元(一四八七)年の詩文の中で、「足利の学校には諸國から学徒が集り学問に励み、それに感化されて、野山に働く人々も漢詩を口ずさみつつ仕事にいそしみ、足利はまことに風雅の一都会である」と讚美しております。

また天文十八(一五四九)年にはフランシスコ・ザビエルにより「日本国中最も大にして、最も有名な坂東の大学」と世界に紹介され「学徒三千」といわれるほどになりました。

江戸時代の末期には「坂東の大学」の役割を終え、明治五年幕をおろしましたが、足利学校の精神は現在に引き継がれています。

昭和五十七年より「史跡足利学校跡保存整備事業」を実施し、平成二年江戸中期の姿に甦りました。

日本最古の学校

足利学校 入学証

